

## 研究要旨

血友病に対する血液製剤治療で HIV/ HCV に感染し非代償性肝硬変を呈した患者に対する脳死肝移植を行った。HIV/HCV 共感染による肝硬変を有する血友病症例では、術中止血に難渋するとの報告もある。また、エミシズマブ投与例では、凝固系のモニタリングに苦悩することもある。

本症例では、HIV・血友病専門医、麻酔科医、消化器内科、薬剤部、輸血部、臨床検査科とシミュレーション・連携を行うことで安全に脳死肝移植を施行できた。

## 共同研究者

北郷実, 阿部雄太, 八木洋, 篠田昌宏, 堀周太郎, 田中真之, 中野容, 上村翔, 福田和正, 北川雄光 (慶應義塾大学医学部外科学 (一般・消化器))

## A. 研究目的

血友病に対する血液製剤治療で HIV/ HCV に感染し、非代償性肝硬変を呈した患者に対して脳死肝移植を施行した。本患者の経過を報告する。

## B. 研究方法

上記患者のデータを電子カルテから収集した。初診から現在までの経過をまとめた。

## (倫理面への配慮)

得られたデータは全て匿名化し、情報は慶應義塾大学一般・消化器外科内の管理された特定部署内で管理するとともに、個々のデータの秘匿性を保持する。

## C. 研究結果

本患者は生後 8 か月に血友病を疑われた。血友病に対する血液製剤治療で HIV/HCV に感染し、20XX 年から HIV の治療を開始した。HIV ウィルス量および免疫状態に関してはコントロール良好である。20XX+14 年、慢性 C 型肝炎に対して、ペグイントロン+レボトル+ソブリアードで治療され

たが、SVR を得られなかった。また、肝機能障害を発症した。20XX+15 年、ハーボニーで治療し SVR を達成した。その後、肝機能は小康状態を保っていた。20YY 年、肝予備能が増悪し、肝移植目的に当院紹介受診した。Child-Pugh score 10 点 C, MELD score 19 点であった。肝移植適応専門委員会の協議で脳死肝移植の適応があると判断され、脳死肝移植登録を行った。HIV/HCV 共感染のため、登録時の MELD は 27 点相当であった。

登録後約 2 か月で脳死肝移植を施行した。術前シミュレーションを基に第 VIII 因子補充を行い、止血コントロールは良好であった。また、血友病 A はエミシズマブで治療されており、APTT および第 VIII 因子活性の測定に抗エミシズマブ抗体を使用した。術後 13 日目から第 VIII 因子製剤の補充は不要となった。第 VIII 因子製剤の計画的な投与により出血性の合併症をきたすことなく経過した。胆管胆管吻合の縫合不全を来しドレナージ治療を要したが、術後約 3 か月で軽快退院した。

#### D. 考察

HIV/HCV 共感染による肝硬変を有する血友病症例では、術中止血に難渋するとの報告もある。また、エミシズマブ投与例では、凝固系のモニタリングに苦悩することもある。本症例では、HIV・血友病専門医、麻酔科医、消化器内科、薬剤部、輸血部、臨床検査科とシミュレーション・連携を行うことで安全に脳死肝移植を施行できた。

#### E. 結論

HIV/HCV 重複感染による非代償性肝硬変患者に対する脳死肝移植手術は安全に施行することができた。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

HIV/HCV 重複感染肝硬変の血友病 A 患者に対して脳死肝移植を施行した一例（第 58 回日本移植学会総会、2022 年）

#### H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし